

調べものの部屋には、中高生が調べものをするのに役立つ本など約1万冊があります。その中から2か月ごとにテーマを決めて選んだ本を、ウェルカム展示として入口で紹介しています。

※このリストは、展示時点で担当者が選んだものであり、テーマに関する網羅的な資料リストではありません。

朝顔は小学校の観察実験で使われることもあり、親しみを持つ方は多いでしょう。夏の朝に咲いている姿は涼を誘います。観賞用以外の朝顔を取り上げた本や、昔から朝顔が愛されていた様子がうかがえる本を集めてみました。

## テーマ：朝顔

### ▶リストの見方

No.	書名(あれば巻号) 著者名(出版者, 出版年)【調べものの部屋請求記号】	【 】の中は、調べものの部屋のどこにあるかを示す請求記号(日本十進分類法を使用)です。
-----	---	---

### ▶薬としての朝顔

1	毒草・薬草事典：命にかかわる毒草から和漢・西洋薬、園芸植物として使われているものまで 船山信次 著 (ソフトバンククリエイティブ,2012) 【471】	様々な毒草・薬草の成分や、その植物そのものについて簡潔に紹介しています。朝顔についても、医薬品として日本に伝来したという経緯を載せています。
---	---	--

### ▶江戸時代の朝顔への関心

2	江戸のガーデニング 青木宏一郎 著 (平凡社,1999) 【622】	江戸時代に流行した「変化朝顔」の個性的な名前や外見を、カラー図版入りで紹介しています。朝顔以外にも、江戸時代に愛好された植物や、当時の園芸の特徴も取り上げています。
3	和漢三才図会 17 寺島良安 著 (平凡社,1991年) 【R-031.2】	18世紀前半(江戸時代、正徳～享保年間)に刊行された百科事典。著者の寺島良安は医者であり、牽牛子(あさがお)の項(p.198-200)ではその外見や薬効についても紹介しています。江戸時代の人が朝顔をどう捉えていたか知ることができます。
4	日本美術全集 13 (小学館,2013年) 【708】	江戸時代の京都と江戸を中心に活躍した画家や工芸作家の作品を取り上げています。大きめの金屏風を朝顔だけで彩った《朝顔図屏風》は鈴木其一の意欲作で、メトロポリタン美術館(アメリカ合衆国)が所蔵しているこの作品を、見開きの大型図版で鑑賞できます。
5	柳田国男全集 26 (ちくま書房,1990) 【380】	柳田国男が当時の現代社会を解き明かそうとした著作「明治大正史世相篇」。その中の「第一章 眼に映ずる世相 四 朝顔の予言」では、明治以降のガーデニング趣味の素地として江戸時代の朝顔愛好があったという考えを述べています。

### ▶日本文学に登場する朝顔

6	日本の歳時記：読んでわかる俳句 夏 (小学館,2014) 【911.3】	この歳時記には、夏の季語とその解説が載っています。「朝顔」は秋の季語ですが、「朝顔市」は夏の季語としてこの巻に掲載されています。
7	源氏物語 上 (小学館,2008) 【913.3-ゲン】	全54帖からなる源氏物語の中で、第20帖には「朝顔」の名が付いています。源氏は意中の姫君と朝顔の花を詠んだ歌のやり取りをしますが、それ以上に仲を深めることはできませんでした。
8	志賀直哉全集 第9巻 (岩波書店,1999) 【913.6-シガ】	「朝顔」は志賀直哉の短編。老境になって初めて気付いた朝顔の美しさに言及しています。後記では、志賀直哉自身の解説を紹介しています。
9	漱石全集 第17巻 夏目金之助 著 (岩波書店,1996) 【913.6-ナツ】	夏目漱石が詠んだ詩歌が収録されています。巻末には、掲載されている詩歌の初めの二文字で調べる「五十音索引」、何を詠んだか(主題)を元に調べる「季題索引」があります。朝顔(朝貌)を詠んだ俳句は複数ありますが、その中には伝統的には秋の季語である朝顔を夏の風物詩として詠んだ句もあります(p.158)。
10	宮沢賢治全集 1 (筑摩書房,1986) 【913.6-ミヤ】	「オホーツク挽歌」は1923(大正12)年の青森・北海道・樺太旅行から想を得た宮沢賢治の詩。冒頭、海辺の景色の描写の中に朝顔の花が登場します。